

7 書写・書教育「まずは健康」 報告者：苫小牧西高校分会 磯角 広一

1 今年度の分科会について

今年度は昨年度同様に会場とオンラインのハイブリッドで実施した。しかし、会場参加3名、残念ながらオンラインでの参加はなかった。過去オンラインでの参加はあったが、再び参加してくれる人はいない。この分科会での議論が参加する人のニーズに合っていないのか、問題が解決したので参加しないのかがわかれば、もう少し手の打ちようもあるのかもしれない。このまま、参加者が少ない状況であるならば、今までと違う方策を講じていかなければならないだろう。

2 レポート報告から

「とにかく私の話をきいてほしい 2024 秋～私の生活と環境と授業について～」

砂川高校分会 中谷 幸代

ここ数年の、中谷さん自身の闘病と、それをきっかけにさまざまに変わっていった職場・授業にかかわる報告であった。日々多忙の中で生徒のことを考え、実践してきたことと自身の闘病の苦悩がよくわかる内容となっていて、授業実践のみならず、職場のこと教育課程のこと、自身の健康を害してしまい変わらざるを得ない状況のなかで、前向きの奮闘ぶりはたいへん参考になるものであった。

教員にとって大切なものは情熱だけではなく、教員自分自身の体と心の健康が大切なのだと切に感じられた。また、僭越ながら、職場の理解と配慮の在り方は、いままでの中谷さんの実践が職場で理解されているということが形となったのだろうなと推察された。職員誰もが健康で熱意をもって生徒の学びを支えるために、管理職はじめ職場の同僚性が必要だし、重要なのだと痛感させられる報告であった。

「1年目のもやもや」苫小牧南高校 磯角 広一

今年度は、一昨年度からとりいれている「学び合い」の手法を活用した授業実践の報告を行った。今年度は転勤一年目で苫小牧南高校での授業実践がうまく回っていない。前任校と現任校の、職場環境と生徒理解が十分ではないので大変戸惑っているという内容であった。

しかし、ピンチはチャンス今までの実践を見直し、さらに良いものにするための気づきの一年になることを祈念する。

「リズムで教える書写指導」音更町生涯学習推進員 野坂 武秀

内容は、長年この分科会で培ってきた経験や知恵を活かした小学校での授業実践報告であった。野坂さんの実践が、多くの書写で困っている教員たちの救いになることを期待したいが、新たな参加者がいない限りはなかなか広がらない。

3 まとめ

今年度は、「健康」が非常に重要なことを実感できた研究会となった。学びの実践も健康第一。健康な体と心が、豊かな教育を支える原動力である。

多くの子どもたちの挑戦を支えるためにも「働き方」の重要性は大きくなるだろう。健康な働き方を進めるためにも、組合が原動力となって力を発揮できるようとりくみを継続していきたい。